

世の中に“誠” 役立つ看板づくり ストレッチャーになる看板

事業内容

看板に付加価値を

国内に工場を持ち、加工・組立から発送までを自社で一貫して行う、創業54年の看板メーカー。在庫があれば即日発送も可能で、特注品が1個から注文できる短納期・多品種生産が強み。グローバル化で看板も価格競争にさらされる中、コストダウンだけでは太刀打ちできないと“世にない”高付加価値商品を武器に生き残りをはかってきた。

“誠” 役立つ商品づくり

東日本大震災の際、「がんばろう日本スタンド」を作り、売り上げの一部を義援金として宮城県石巻市に寄付。これを機に喜井社長は「世の中に本当に役立つ商品を作りたい」との思いを強くした。看板づくりで培った技術を防災に生かせないかとの模索から生まれたのが、防災看板「サポートサイン」。平常時は看板として使用し、非常時にはストレッチャーや車いすとしても使える。倉庫にしまっておく必要がないので、場所をとらず非常時に慌てず使用できる。

常磐精工 株式会社

代表取締役 喜井 充

〒591-8001 大阪府堺市北区常磐町3丁19-3

TEL. 072-255-1287 FAX. 072-255-1384

資本金/20,000千円 従業員/14名

主な取引先/トラスコ中山、店研創意、大日本印刷

主な保有設備/NC旋盤・NCフライス盤・汎用旋盤・汎用フライス盤 スポット溶接機・電気溶接機・プレス機

主力製品/商業看板・展示什器

短納期 OK 企画力 OK 小ロット OK オナーの技術 OK 量産 OK 試作 OK 連携力 OK

商品を普及させ、真の社会貢献を

代表取締役 喜井 充

「サポートサイン」は人の命をつなぐ、“誠” 役立つ商品だと確信しています。しかし、どんなにいい商品でも「いいね」と思うだけでは買ってもらえません。販売実績を作り、普及を加速させたいと思います。



補助事業

量産体制の構築

「サポートサイン」は、画期的な防災用品としてメディアに取り上げられ注目を集めたが、当初は加工を手作業で行っており、量産できないのが課題であった。「サポートサイン」は強度を上げるため特殊な型押しパイプを使用しており、加工には正確な穴開けと組立の技術が必要となる。ネジを通すための穴が規定位置より1mmでもずれると、垂直なネジ留めができなくなり強度に影響する。また枠を垂直に組むためにパイプと呼ばれる工具でパイプを複数箇所固定しなければならず手間がかかっていた。

穴開けと固定を機械化

喜井社長は「サポートサイン」の普及には量産体制の構築が欠かせないと判断し、設備を拡張してそれまで手作業で行っていた工程を機械化。穴開け加工機として(株)富士精機(愛知県小牧市)のCNC(コンピュータ数値制御)旋盤を導入し、本体枠の固定には(株)レザック(大阪府八尾市)のエアシリンダを導入した。



防災看板「サポートサイン」



穴開け加工機



エアシリンダ

具体的成果

品質安定、生産効率倍増

穴開け加工機の導入でパイプの指定箇所への正確な穴開けが可能となった。また本体枠固定用のエアシリンダによってパイプ固定の手間が減らせ、より正確に枠組みできるようになった。以前は、手作業のため従業員の力量の差で品質にばらつきが出ることもあったが、導入後はそれもなくなり品質が安定した。また各工程の生産速度が上がったことで、時間あたりの生産量を2倍に増やすことができた。

新規事業への参入も計画

加工機の導入により、「サポートサイン」の早期の事業化に目処が立った。加工が容易になったことで、「サポートサイン」用に開発した強度の高い特殊型押しパイプが、商品を展示するための棚やテーブルなどの什器(じゅうき)にも応用できると考え、新たに什器分野への進出も検討している。同社がこれまで看板事業で培った技術とノウハウを生かし、什器分野においても社会貢献できるものづくりを加速させる。積極的な設備導入により製品の“高性能・高品質”に磨きをかけ、日本発の看板・什器メーカーとして海外展開も予定している。

今後の戦略

防災用途で販路開拓

看板は飲食産業でのニーズが多かったが、「サポートサイン」は防災対応品として幅広く提案できるため、販路の拡大を急ぐ。主力の飲食業界に加え、介護施設や商業施設などの、人口密度が高く人目に付きやすい場所への提案に力を入れる。設置場所の参考にしているのが自動体外式除細動器(AED)。国立病院機構災害医療センターの研究によると、AEDは民間使用が許可されて以降急速に普及し、5年間で約20万台を販売した。「サポートサイン」もストレッチャーや車いすの代替品としての認識が広がれば、AEDの10%程度の普及見込みがあると見ている。2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどの大規模なイベントでの採用を目指している。

多様な従業員の採用と新社屋の設立

「誠」役立つ商品づくりの一環として、多様な従業員が働ける職場環境作りにも注力する。主婦や高齢者などの採用に加え、障がい者雇用にも力を入れる方針だ。2019年夏にはバリアフリーを考慮した新社屋も完成する予定。そのためにも「サポートサイン」の売り上げを伸ばし、生産拡充への弾みとしたい考えだ。

取材を終えて

イベント続く関西で 普及のチャンス

“ストレッチャーや車いすになる看板”として話題を集めた「サポートサイン」。斬新で確かな品質を持つ同製品が普及し、新市場を作り上げるのは時間の問題だ。ラグビーワールドカップ2019日本大会や2020年の東京オリンピック・パラリンピックなどのスポーツイベント、万博・統合型リゾート(IR)の誘致に湧く関西で、商機を逃さずヒットさせてほしい。

<http://www.tokisei.co.jp/>